



NPO 法人近畿水の塾 第 204 回河川塾・拡大版

# ドキュメンタリー映画「荒野に希望の灯をともし」上映&講演会

なかむらてつ

～医師・中村哲さん 現地活動 35 年の軌跡～

## [中村哲さんの事](NPO 法人近畿水の塾代表・福廣勝介)

縁あって、中村哲さんの事を、「テッチャン」と呼ぶ九大医学部同級のドクターを存じ上げていた。「山行で大学さぼった時の講義ノートを貸していた」と言う仲だったらしい。ドクター情報で、京都での報告会に伺った。行って聞いてみると、偉業とは打って変わっての、静かな静かな話しぶり！お開き後のエレベーターの中で小人数になった時、ドクターの話をする、更に、にこやかで穏やかな表情になって、「今どこにいるか知っている？」と言うので、僕が頂いていたドクターの名刺を差し上げた。そんな柔らかな事を思い出します。

「現地で、凶弾に倒れる」ニュース！そして映画完成。早速に観に行った。

その感激を「水の塾」事務局メンバーに話した。メンバーの中に、早速映画 DVD を買い求めた者がいて、他の面々も次々と観る事に。そして今回の会である。

会員の皆さんはじめ、皆さん奮ってご参加下さい！

日時:令和5年2月 25 日(土)13 時 30 分～16 時 30 分

場所:尼崎市立小田南生涯学習プラザ 大会議室1

(長洲中通1-6-10 ☎06-6488-2574)

※JR 神戸線「尼崎」駅から徒歩5分

内容:1. 開会あいさつ

2. 上映会(13 時 40 分～15 時 10 分)

※会員外の方は、参加費 500 円頂戴します

3. 講演「ペシャワール会の活動について」

講師 中山博喜氏(写真家・京都芸術大学教授)

4. 懇親会(近傍の居酒屋にて。参加費約 4 千円)

※講師の中山さんにも参加いただく予定です



マスク着用、手指の消毒など新型コロナウイルス感染症対策にご協力をお願いします

### <映画の紹介>

アフガニスタンとパキスタンで 35 年にわたり、病や戦乱、そして干ばつに苦しむ人々に寄り添いながら命を救い、生きる手助けをしてきた中村哲医師。その現地活動の軌跡を 1000 時間におよぶ記録映像と中村医師が遺した文章でたどります(約 88 分)。

### <講師の紹介>

中山博喜 氏:写真家。大学を卒業後、NGO 団体・ペシャワール会の現地ワーカーとしてパキスタン、アフガニスタンで活動。5 年間におよぶ現地活動の中で、かの地での日常を写真におさめる。著書に「水を招く」(赤々舎)。京都芸術大学教授



下記申込書に必要事項をご記入の上、所定の宛先まで申込をお願いします。(※切:2/17(金))

申込書( E-mail [ms.sirakasi@gmail.com](mailto:ms.sirakasi@gmail.com) )

1. 上映会等 出席・欠席

2. 懇親会 出席・欠席・考え中(どちらかに○をお願いします。)

氏名: \_\_\_\_\_

住所: \_\_\_\_\_

TEL/FAX: \_\_\_\_\_

E-mail: \_\_\_\_\_

コメント(近況等): \_\_\_\_\_

[近畿水の塾の会員からの、もう少し詳しい映画の紹介です]

「荒野に希望の灯をともし」～医師・中村哲 現地活動 35 年の軌跡～

- ・アフガニスタン。飢餓や栄養失調で病気が蔓延、子供が毎日死ぬ。
- ・食べ物で8割救える。
- ・目的はひとつ。自分達で食べていけるようにする。
- ・百の診療所より一本の用水路を。白衣を脱ぎ、ド素人の土木現場へ。
- ・クナル川。緑の大地計画。13kmの用水路設置。1200ha の田畑を。
- ・2001年、同時テロ。自衛隊派遣。空爆報復より干ばつ支援を日本の国会で訴えるが聞いてもらえず。
- ・瀕死の小国に大国が束になって何を守るのか。空虚な主義主張の衝突。
- ・日本中で講演し訴える。2億円の募金。何かをしたい日本人の健全な感性を食糧供給に結びつけたかった。
- ・10才の次男が悪性脳腫瘍で余命わずかに。そばにいてやれなかった。我々はアフガニスタンを見捨てない。
- ・生きるために傭兵やゲリラになった人が戻りだした。武器をつるはしやスコップに。
- ・平和とは人間同士の関わりではなく自然との関わりに行き着く。
- ・大河に設置する堰は、難工事に。故郷福岡朝倉市の山田堰を参考に。人は見ようとするものしか見えない。堰を流れに斜めに。
- ・用水路に水。早くかけつけるのはトンボと子供。年格好の似た子どもが夭逝した次男と重なる。
- ・大事なはいきること。命を大切にすること。
- ・ガンベリ砂漠に2万本の植樹。
- ・100年に一度の洪水で元の木阿弥。水路は土砂に埋まり堰は流され。主役は大自然。人はおこぼれをもらっているだけ。自然の大河は制御不可能。
- ・2019年、水路は26km。15600ha が緑に。9本の用水路。65 万人の命を支える。
- ・酪農も復活、待望のチーズやサトウキビも。自然がどれだけ恵みを与えてくれているか。それを知る生き方をしなければならない。人間も動物のひとつ、自然の一部。
- ・2019年12月、仲間とともに凶弾に倒れる。
- ・こんなすごい日本人がいたのか、ただただ感動です。

(近畿水の塾会員 安田博之)

以上